【ATC フィロソフィ㉛】

こんにちは、アークテックコム株式会社で、技術書類の作成と翻訳を行っています豊原 信です。

Tel：050-6864-6201
Fax：050-6864-6202
E-mail：
m.toyohara@arcteccom.jp

大善の本質

今月は弊社のフィロソフィー（考え方）と応援メッセージの紹介です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

思いやりの心で判断をする

私達の心には「自分だけがよければいい」と考える利己の心と、「自分よりも他の人を優先して助けよう」とする思いやりの心があります。利己の心で考え判断すると、自分のことしか考えていないので、誰の協力も得られ難いです。自分中心に考えますから視野も狭くなり、間違った判断をしてしまいます。

一方、思いやりの心で考えた、人が喜ぶことで判断すると、「人によかれ」という考えですから、まわりの人みんなが協力してくれます。また視野も広くなるので、良い結果を得ることができるのです。

より良い仕事をしていくためには、自分だけのことを考えて判断するのではなく、まわりの人のことを考え、思いやりに満ちた心で判断をすべきです。

部下から相談を持ちかけられたり、仕事についてあれこれと指示を下さなければならなかったり、リーダーは様々ことを判断していかなければなりません。私達は日々直感的に判断をしがちですが、トレーニングされていない人間が直感的に判断を下す場合、たいてい「本能」の部分で物事を考えています。

本能とは、私達の心を形成している基本的な部分で、自らの肉体を守ることを最優先する心です。自分自身にとって有利になるように行動しようとする、あるいは考えようとする心で、人によかれと思う「思いやりの心」の対極に来るものです。肉体を持った自分自身を守るために、生まれたときから備わっているものです。

つまり、人間というものは、考えるときに、自分にとってそれは都合がいいことなのか悪いことなのか、自分の会社がそれで儲かるか儲からないかというふうに、自分を中心に据えて物事を判断しがちであるということです。

ところが、このような判断だと、自分自身にとっては都合がいいかもしれませんが、その周囲の人にとっては迷惑なことになるかもしれません。

極端な例を挙げれば、相手が何も知らないのをいいことに、あるものを相場よりも高い値段で売りつけようとする人がいます。相手はただ世間相場を知らないだけであって、その値段で買えば必ず損をするだろうということが売り手には見えているのに、それでも、「本人が買うと言っているのだから、いいではないか」と売ってしまう。

本能だけで物事を考えた場合、このように周辺の人に損をさせ、後々大きな問題を引き起こしてしまう恐れがあります。逆に思いやりの心で判断をすると相手のことを第一に考えるわけです

から、「自分は儲かるかもしれないが、相手は後で必ず困ることになるだろう」と思いとどまり、相手に「こんなに高い値段で買ってはいけません。私がリーズナブルな値段でお売りします」と言うに違いありません。これは一見損をしたように思えますけれども、後で必ず双方にとって良い結果をもたらすことになるはずです。

「相手のためになることなのかどうか」を考えて判断を下す

「思いやりの心」の使い方の分かりやすい例を引用します。

例えば、あるものを買うか買わないか、売るか売らないか、また、人から頼まれたことを引き受けるかどうかと考えたとき、瞬間的にその答えが出てきたとします。しかし、それは利己の心から出てきた思いですから、その思いにとらわれる前に、ちょっと一呼吸入れるのです。最初に出てきた思いをいったん横に置いて、「ちょっと待て、自分が儲かるか儲からないかということではなく、相手にとってそれが本当に良いことか悪いことか考えて、人として正しいかどうかで判断しよう」と、ワンクッション置くわけです。そして、相手が喜んでくれると確認し、また、自分にとってもいいことであるときに初めて判断を下すようにするのです。そうしないと、どうしても自分の都合のいいように判断してしまって、相手に不利益を与えてしまいかねません。思考のプロセスの中にそのような回路を入れておくことは、たいへん大事なことだと思います。私達凡人でも、そういう習慣をつけさえすれば、すばらしい判断ができるようになるはずです。

大善の功徳と小善の罪

ここで大切なことは、相手にとって何が本当にいいことなのか、ということを考える必要がある、ということです。

例えば、つぶれかかっている会社から「実は今お金がない。掛け売りをしてもらえないか」と依頼され、「売掛債権で売ってくれ」と頼まれたとします。調べてみると、その会社は来月くらいには倒産するだろうと噂されていて、ファクタリングできそうにない。それでも相手は「何とか売ってくれ」と頼んでくる。その場合、売るべきなのか、それとも断るべきなのか。

「思いやりの心で考えるならば、この場合、当然売ってあげるべきなのだろう。しかし、そうすると売掛金がこげついて、うちの会社が困ることになる。いったい、どうすればいいのか。思いやりの心と事業経営は、矛盾するのではないだろうか」と迷ってしまいます。

そういうときは、因果律の考え方で相手の本当の望み潜在意識に隠れた要望を捉える努力が必要です。

また自分の子供をかわいがるあまり、甘やかし放題に育てる。その一瞬一瞬は、子供は喜んでくれるのですが、結果として、わがまま勝手に育ち、とんでもない人間になってしまい、不幸な運命をたどります。このように、目先のことしか考えずに、相手に施そうとする善行を「小善」と言います。そのときはいいように見えても、後々悪い結果を招くことになります。「小善は大悪なり」と言いますが、つまらない善をなすことは、かえって悪をなすことになるのです。

利他の心で判断をする

先ほども述べたように、思いやりの心で物事を考えるようになると、周りの人がうまい話にまんまと引っかかっていく状況がよく見えるようになります。我利我利亡者が、自分だけ儲けようと思って走り回っているのが、はっきりと分かるわけです。

１人で勝手に走り出し、自分

から柱にぶつかってはコブをつくる。そこに絆創膏を貼りながら、また別の方向に向かって走り出す。「あっちに行走り出すとズッコケるぞ」と思いながら見ていると、案の定、石につまずいてズッコケる。そして、全部自分が勝手にやったことなのに、「そこに柱があるのが悪い」「道端の石ころが悪い」と他のせいにして、自分はちっとも悪くないと思っている。「私はこんなに努力をしているのに、うまくいかない。いったい、この世の中はどうなっているのか」と文句を言う。しかし、それは全部欲にかられた自分がやったことであって、そのような考え方がうまくいかない源なのです。

思いやりの心で見れば、それがよく分かります。人が持ち込んでくるいかがわしい話も、裏側まで全部見えてきます。そのためにも、思いやりの心を持つということはたいへん大事なことなのです。

社会現象の因果律をしっかりと掴み、自分だけ良ければいいという考え方で商売を行うのではなく、周囲の人たちにとってそれはどうなのか、取引をする相手にとってそれはどうなのかというところまで考え、そして、「みんなにとってそれはいことなのだ」という結論に達したときに商売を成立させるような心掛けが必要です。

※2025 年 10 月号に続きます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今月の応援メッセージ

悪魔と命

昔、悪魔がある町に現れて、「今日から、お前たちのものをすべて俺は奪い取ることにする。しかし悪魔にも情けはある。明日までに残しておいてほしいものを一つだけ書き出せ。それ以外のものは一切、俺が奪い去るからな」と言い残して、悪魔はひとまず立ち去った。

さあ、町の人はてんやわんやの大騒ぎ。「俺はお金だ」「俺は食いもの」「俺は家だ」「いや、私は名誉だ」「私は宝石よ」と、それぞれいろいろなものを書き出した。あなたならどうしますか？悪魔はたった一つだけしか見逃してくれません。

さてさて、一夜明けてみると、その町にはなんと、たった一人の人間だけしかいなくなっていました。

それは、金だ、屋敷だ、やれ宝石だ、やれ何だと書き出した人々は、一番大切な「命」を忘れていました。たった一人だけが「命」と書いていたので生き残ったのです。

金だ、家だ、仕事だ、名誉だ、愛だ、は確かにみんな大切ですが、命あってのものでしょう。それ以外は、所詮は人生の一部でしかないのです。

これは千夜一夜物語（アラビアンナイト）に出てくるお話です。生きることの本質を掴むと悩まないですね。

豊原 信